

宮田守男

フリーード風

(現場)からの

(343)

4月、長野県に地球温暖化による気候変動の被害を軽減する「適応策」の推進拠点として「信州気候変動適応センター」が設置された。

書や農業などの影響を予測して市町村や企業に情報を提供し、具体策の検討を支援するのが目的だ。5月には、北海道のオホーツク海側の佐呂間町で35度以上の大猛暑日に。

長野県内でも各地で5月の最高気温を更新した。今年も猛暑かと心配したが、テレビ解説での気象予報士は、1993年の状況に似いで、その時の日本は、夏の深刻な冷害と台風の相次ぐ襲来で、大凶作となり、コメを外国から緊急輸入したと問題提起した。

た。気温上昇による災害や農業などの影響を予測して市町村や企

業に情報を提供し、具體策の検討を支援するのが目的だ。5月には、北海道のオホーツク海側の佐呂間町で35度以上の大猛暑日に。

この平成の大凶作は、長雨・日照不足。

低温・台風などの異常気象で、いもじ病が大発生し被害を受けた農家もあったが、同じ作況指數の地域でも、田圃で差があり、異常気象が不作の全ての原因

で無かった。銘柄を優先しての高く売れる米作りや、農業労働力の弱体化で、深水管理による低温防止をはじめ手間のかかる稻作作業の基本技術を励行できなかったと言われてお

り、今後の対応に注目して行きたい。

高齢化・輸入圧力・異常気象などにより、荒廃する農地の増加が止まらない

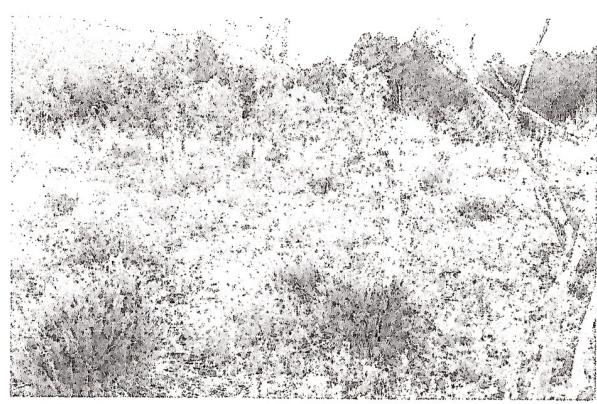
昨年の災害レベル級の猛暑で話題となつた環境省が作成した「2100年未来の天氣予報」。高知県四万十市で44.9度、名古屋で43.9度、東京で43.

農作物が枯れる被害も。最大瞬間風速90km/hという音巻のような風を吹かせる台風の出現も予想。異常気象は地球温暖化の影響。対策をしなければ21世紀末には地球の気温が現在より最大4.8度上昇

すると「今そこにある危機と認識すべき」と各紙が情報発信した。

未来の話ではない、昨年東京に近い熊谷の気温が41.1度、史上最高を記録、命に関わる危険な猛暑は日本だけでなく世界気象機関

農業の未来に影をおとす異常気象



で無かった。銘柄を優先しての高く売れる米作りや、農業労働力の弱体化で、深水管理による低温防止をはじめ手間のかかる稻作作業の基本技術を励行できなかったと言われてお

り、今その後にある病院に搬送される人は、全国で12万人以上とした。さらに、局地的に1時間に100mmを超える猛烈な雨

が降り、河川の氾濫や土石流が発生、一方で雨が降らず、干ばつで複数箇所で土砂崩れが発生、多くの観光客が孤立した。

温暖化への取組を、今以上に実行することに一人ひとりが認識するべきだろ。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)